

第2回 葛飾区教育振興基本計画策定検討委員会会議録

日 時：令和4年8月30日（火）
午前10時00分～午後0時20分
場 所：青戸地区センター ホール

○委員長 皆さん、おはようございます。着座にて失礼いたします。定刻になりましたので、これより、第2回葛飾区教育振興基本計画策定委員会を開催します。なお、本日の会議は、議事録作成のために録音をさせていただきますのであらかじめご了解いただければと思います。傍聴希望者は無しと事務局から伺っておりますが、よろしいでしょうか。無しということで、進めさせていただきますと思っております。

前回の会議の前に私が大変わがままなお願いをいたしまして、やはり大事なアンケートをきちっと理解して策定の協議に入りたいという気持ちがありまして、皆さんも色々なご意見があったと思います。事務局もきちっと我々の意見を取りまとめて、既にご覧になっていると思いますけれども、それをアンケートに反映しながら、検討を進めるということで、今日の会議を特別にセッティングしていただきまして、委員の皆さん、それから事務局に大変ご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げたいと思います。今日の協議でしっかりと皆さんと議論をして確認して進めたいと思っております。わがままと申しましたことをお許しいただければと思っております。それでは議事に入らせていただきます。その前に事務局より事務連絡をお願いいたします。

○教育総務課長 よろしくお願ひいたします。まず2点、事前にお話をさせていただきます。

1点目は、委員の皆さまの出欠状況でございます。本日、野川委員、鈴木（康）委員、芝山委員、河原塚委員、高橋委員、永島委員、吉本政策経営部長、鈴木子育て支援部長から欠席のご連絡をいただいております。また、大場委員と上田委員はリモート参加ということで、皆さまから見て舞台側で画像が出てまいりますのでよろしくお願いいたします。

2点目は、資料の確認をお願いいたします。1つ目は、A3横両面印刷の「意識調査に関するご意見」というタイトルが付いている資料です。それから意識調査票といたしまして、5つの種別の調査票です。また本日机上には、会議の次第、席次表を置かせていただいております。なお、不足の資料等ございましたら、恐れ入りますが挙手にて事務局までお知らせください。

そして、第1回の計画策定検討委員会の会議録ですが、事前に皆さまにご送付させていただいておりますが、修正等ございましたら、本日の会議終了後に事務局までお申し出いただければ幸いです。なお、修正後に委員長以外の委員の方のお名前を伏せて、ホームページにアップさせていただく予定でございます。私からの連絡事項は以上です。

○委員長 ありがとうございます。事務局より資料確認、それから前回の議事録の確認についてお話がございました。後で訂正する箇所がありましたら、教えてくださいということです。

○委員長 事前に資料も送付していただいておりますので、皆さん色々ご覧いただけたと思います。これより議題に入りたいと思います。第1点目の「意識調査に関する意見について」です。第1回策定検討委員会で皆さんから色々ご意見をいただきまして、事務局で整

理していただいています。そして両面の資料の方で我々が前回申し上げた意見を事務局が丁寧に、ほぼ漏れなくきちっと取り上げていただいて、それに対してどう取り扱うのかということをお示ししていただいています。これにつきまして説明をお願いします。

○**教育総務課長** それでは、A3横両面の「意識調査に関するご意見」と題しました資料について、若干お時間をいただいて補足説明をさせていただきます。こちらの表の作りですが、まず一番左側にナンバーをふってございます。全部で54点となっております。その右側に所管課の記載があります。そして、調査票が5種類ありますけれども、どの調査票なのか、そしてその右側、どの設問に関するものなのか、そしてご意見の概要、趣旨。それらに対します対応の考え方。それから会議体等というタイトルをつけております。7月7日の計画策定検討委員会、その後ご意見をいただいた内容に加えまして、こちらの調査の概要につきましては、教育委員会、区議会の文教委員会にもその後ご報告を申し上げてございます。そうした中でご意見を頂戴した点もございますので、そちらについても記載しております。本検討委員会でいただいたご意見については、策定検討委員会と記載しております。例で申し上げますと17番をご覧ください。こちらについては、文教委員会と記載してございますけれども、これは文教委員会でいただいたご意見だということを表しております。最後に一番右の取扱いという欄です。まず○と△の表示をしておりますが、表の右上の取扱いの例をご覧ください。○につきましては、頂戴いたしましたご意見等について、この調査に反映したものです。そして△につきましては、理由は個別に付してございますけれども、ご意見、ご要望として伺って今後の参考にするという取扱いを決めたものでございます。また、「事務局修正」というものがございます。例えばNO. 1、NO. 10などでございますけれども、こちらにつきましては、委員の皆さま等から直接的なご意見はありませんでしたが、様々なご意見をいただいた中で、改めて教育委員会事務局といたしまして、個別の設問をチェックした中で全体のバランスをとるべきではないか。そういった観点から私どもの判断で修正をしたものにつきまして、「事務局修正」と記載させていただきます。

なお、この54件には記載しておりませんが、委員からいただいたご意見の中でこの教育振興基本計画の存在についてアンケートに答える方の中には、計画の存在を知らない方がいらっしゃるのではないか、というご指摘もいただきました。そのご指摘に対しましては、ひとつ例をご覧ください。アンケート調査票「幼稚園、保育園等保護者調査」と右肩に書いてある調査票をご覧ください。1ページ目の本文、「日頃より葛飾区の教育行政に」と1行目が始まっておりますが、その4行目に※印で網掛けをしておりますけれども、教育振興基本計画のURLをご案内してホームページの計画をご覧ください。ようにして、計画についてご紹介できるように工夫を凝らしたものでございます。また、調査票の見本でございますけれども、修正箇所については、見え消しの線を入れ、そして追加した部分については、文言に網掛けをしております。お配りしている資料につきましては補足説明は以上です。

○**委員長** ありがとうございます。今A3横の資料について詳しく説明をいただきました。これは皆さんからいただいたご意見を事務局の方で○で対応したもの、あるいは△で対応したもの。非常に分かりやすく提示をしていただいたと思います。また補足説明がありましたとおり、案の中で見え消しの線で修正するなど、非常に分かりやすく提示をいただい

たと思います。

それではこれから、議事に入りまして皆さんからご意見をいただきたいと思います。ぜひ、全員の方にご発言をいただきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。まず、送られてきましたのでご覧いただいているとは思いますが、改めて見て、ここはどうでしょうかという質問とかご意見を伺いたいと思います。ほぼご意見が出て、特段もう意見はありませんよということになりましたら、一人ずつご意見をお伺いしますので、その時に、また仰っていただければと思います。とりわけ大島委員、原委員にはまた後で大事なコメント等をいただければと思います。リモート出席の大場委員、上田委員も遠慮なくご指摘をいただければと思っております。

それでは、1～2分見ていただいて。どなたか気が付いた方からどんどん発言をいただきたいと思います。ぜひ忌憚のないご意見をお願いいたします。よろしくお願いします。

(1～2分、資料を見る)

ではよろしいでしょうか。委員をお願いします。

○委員 今回お送りいただいた資料で「幼稚園、保育園等保護者のアンケート」ですが、うちにも5歳児がいるので、恐らくこれが配られるのかなと思いつつ、そういう視点で見たのですけれども。6ページ目の問13 選択項目6で「進学や就職等の進路について指導すること」とありますが、まだ幼稚園、保育園の子どもがいる家庭だと、ここまでのことはそんなに考えられないと思いつつ、中学生保護者向けのことかと思いつつ拝見しました。ちょっとこの質問は、疑問に思いました。

あと1点は、小・中学生保護者アンケートの10ページ目の問21の地域に期待することのところですが、防災とか防犯などの活動、安全の見守りといった「子どもを犯罪から守る見守り活動」をやっています、地域の人達に子ども達の見守りをやってもらえたらと地域への期待を活動の中で思い、もし加えていただければいいなと思いつつ、発言させていただきました。

○委員長 まず1点目、幼稚園・保育園等保護者に対するアンケートの6ページ。問13の6、進路や就職についての質問は、幼稚園や保育園の保護者についてはちょっと難しいのではないかと、という事ですが、これについてどなたかご回答いただける方がいましたら、どうでしょうか。

○指導室長 指導室長でございます。幼稚園の段階で進路を見通すということはまだまだ難しいかもしれませんが、就学前教育の中で、小学校へのアプローチカリキュラム、スムーズな就学へ向けた短期的な目標に向かって、「1年生になって」ということも含まれてのことだと思いますので、大きな意味での中長期的な進路と、「どんな小学生になろう」「お兄さんお姉さんになっていこう」というような短期的な意味での進路、そのように捉えていただければと思います。注釈をつけるかどうかについては検討させていただくこととよろしいでしょうか。

○委員長 指導室長がお答えになったように小学校の中長期的に色々考えて、進路指導を行うということですね。お話のように問13の問が「お子さんが通う予定の小学校において」という小学校において進学とか進路という指導は、指導室長のお答えになったとおりですけど。ちょっと余計なことを申し上げますと、学習指導要領で、小学校のうちからちゃんと計画的に進路指導をやりたいという位置付けがあるんですね。ですからおっしゃ

るように幼稚園や小学校の低学年の保護者で進路ということは考えにくいかもしれませんが、やはり夢や希望をもった「将来何になりたい」「ケーキ屋さんになりたい」ということは大事なんですね。そういうことを幼稚園の頃から育みたいという意図がこの間にある気がします。余計なことを申し上げましたが、よろしいでしょうか。

○委員 はい。ありがとうございました。

○委員長 それでは、小・中学校の方の10ページ問21「地域に期待すること」について。これについてよろしく願いいたします。

○地域教育課長 地域教育課長でございます。問21に「お子様の安全確保のための見守り」を入れたらどうかというご指摘でした。この設問自体が前提として「子どもの健やかな成長に向けて地域に期待すること」ということで、そうした内容の設問を入れさせていただいておまして、「安全確保」ですとちょっと趣旨が異なっているのかなということで、ここでは入れておりません。

○委員長 委員、今の答えでよろしいでしょうか。すごく大事な質問をいただきました。課長がお答えになったような趣旨だということですね。大事なことだと思います。これは余計な事かもしれませんが、今の子ども達の健全育成とか、そういう中で将来20年後、30年後に生きていく子ども達がよりよく生きるということを考えた時に、こうした地域支援はすごく大事なんですね。そういう意味で地域が温かく見守ることで子ども達は成長しますので、この質問はすごくいい質問をいただきました。ありがとうございました。他の委員の皆さんはいかがでしょう。

○委員 3点あります。1点目が、幼稚園・保育園等教員調査票の2ページの2番、問3の項目6番。前回私の方から発言させていただいた内容が反映されて塗られている部分。ありがとうございます。文言が「幼稚園、保育園、認定こども園の教員」というふうになっているんですけども。幼稚園側としては教員で結構ですけども、恐らく保育園では教員という呼び名が適当かという事もあります。今日は、鈴木（康）先生はご欠席ですけども、保育士を教員にするのか、或いは教員等にするのか分かりませんが、その辺の文言をご検討いただけたらと思います。

2点目ですが、幼稚園・保育園等教員調査票の大きな見出し2番、幼保小中の連携についての設問がございます。逆に小・中学校教員用の質問に対しては、幼保小の先生への質問項目として、幼保小連携に関しては、5ページ問6の連続する学びの場というところの40番にひとつだけ「幼保小連携教育」というところがあります。小学校の先生への質問事項が幼保小連携に関してはここだけに収まっているので、かたや幼稚園の方は大きなテーマの2番で幼保小中の連携の質問があるので、我々としては逆に小学校の先生がどのような意見をお持ちなのか非常に興味があるというところです。このアンケートに反映するかどうかは別として、そのように意見があることはお伝えさせていただきます。

それとこれはアンケートではないですけども、幼稚園・保育園等の保護者調査に関しまして、今お話しした幼保小連携について幼稚園や保育園の保護者の方がどの程度、実態を理解されているのかというところがあります。ご意見をいただけたらと思うんですけども。色々な取組を幼保小連携で行っておりますので、その辺のことが実際に在園の保護者の方により伝わると、せっかくやっている事業なので、これだけ幼保小連携が色々な取組をしているということを訴えていければと考えています。私どもの園に関して言えば、

何かしら幼保小の連携があった時には「こういうことがありました」と保護者に配信したりしてお伝えしているのですけれども、そのように幼稚園・保育園・こども園の保護者の方は「自分の園は小学校とこういうふうに繋がっているんだ」ということを在園中にご理解いただけると、更に理解が深まるのではないかと思います。

○**委員長** ありがとうございます。3点ご質問をいただきました。最初の「教員」という言葉については、どうでしょうか。

○**教育総務課長** ご指摘のとおり、表現を改める必要があるかと思えます。それから幼保小の連携の取組につきまして、小学校教員向けの調査につきましてはこの項目だけを設問として広げるというより、様々な教育課題の1つとして、このアンケートの形式ですと今回はこのような形で行かざるを得ないかなと考えております。そうしまして、幼保小連携の取組につきましては、教育委員会としての大変大きな課題と捉えておりますが、令和2年度、令和3年度、就学前教育カリキュラムとか、スタートカリキュラムの充実について、葛飾区として独自の資料を作成したところがございますが、正直申し上げますと、この2年、その取組がなかなか推進していけない現状、教育環境にあったと考えております。ですので、小学校側には今年度は様々な制約がこれまでよりは解かれておりますので、教育委員会、小学校側も発信するように努め、推進していきたいと考えております。

○**委員長** ありがとうございます。最初の2件について、委員よろしいでしょうか。

○**委員** はい。

○**委員長** 今1つずつお答えいただいたとおりで、例えば小・中学校教員の中の9ページの質問項目として「学校と地域との連携」ということが書かれていて、こちらの方は幼保小と限定しているわけではないのですけれども、ある程度捉えているんですね。ですので、二葉委員が今ご懸念された事については、ここでもカバーできるかなと理解したところですがいかがでしょうか。ありがとうございます。それでは3つ目の幼保小の保護者対象の調査というか実態の理解ですね。これについてどうでしょうか。アンケートとか調査票に反映しているのかというご指摘です。どなたかどうでしょうか。

○**委員** 答えプラス私からの質問というか、意見も続けて言わせていただきます。よろしいでしょうか。幼保小連携についてですけれども、やはりここ2年間くらいは上手く活動できていないということを園長先生からは伺っております。けれども幼保小の連携はとても重要なことだと認識しており、保護者の方からも「やって欲しい」という思いはありますけれども、具体的に「こういう事をして欲しい」「こういう事をしたらこういう成果が出る」というものは、今までの「こういうことをしていました」という実態調査を見た覚えがありません。口頭で「こんな事をしていますよ」という事は聞いたことはありますが。実態として「こういうことがありました」「成果としてこういうもので、こういうものがありました、失敗してしまいました、何故かと言うとこういった事情で。」ということをやっとしたデータのようなものを見た記憶もありません。あるということ聞いた記憶もないというのが私の意見です。

○**委員長** 今の委員の指摘で「データのようなものを見たことがない」ということでした。たぶん葛飾区全体で区の意識調査みたいなものがどこかにあるのではないかと思いますけれども。どうでしょうか。

○**委員** データはともかくとして活動しているというご理解がどの程度あるのか、と感じて

いるところです。例えば私どもで言うと、幼保小連絡協議会というものが各エリア、ブロックでだいたいその園の就学先の小学校の先生と園の教員が年に1回程度交流をもって、それぞれの教育について意見交換をしています。あとは、幼保小連携教育検討委員会というものも区の主催でございまして、こういったものがどの程度の頻度で行われているのかということ保護者の方に伝えられると、葛飾区の幼稚園や保育園が小学校とこういう形で繋がっているんだということをご理解いただけるのかなと思います。伝えていただいているのかもしれませんが、更に発信できたらいいのにとおもいます。

○委員長 その回数について年に何回くらいとか、発信の状況について、事務局でお答えいただけるとありがたいですが。いかがですか。

○統括指導主事 幼保小連携教育の取組について、検討委員会はスタートの時点で年に3回ずつ開催させていただいております。委員からお話をいただいたとおり、小学校を中心として近隣の幼稚園・保育園・認定子ども園が交流を図って、小学校に進学することへの憧れであるとか、楽しみになる。またその学校、幼稚園、保育園によっては小学校の校長先生が保護者会にお伺いして、小学校の生活はこういうことですよということを保護者の方向けにお話しし、子どもの不安を少しでもなくす、そんな取組を進めてきたところです。

お話があったとおり、連絡協議会というのを小学校の近隣エリア毎に行っておりまして、一律「こういうことをやる」ということを協議会から話をするとはどちらかという弱めにしていただいて、そのエリアごと、ブロックごとの取り組み方をよく相談をいただいて、やりやすいように、その実態に応じて取り組んでいただいているところです。そういう取組が随分進んできたなというところもございまして、検討委員会としては、定期的な年3回という開催を、今は随時開催という形に変更させていただいております。

今話題になっている幼保小連携教育については、教育委員会としても大変力を入れているところではございまして、「広報かつしか」という広報紙がありますけれども、実はその中に幼保小連携教育についての記事を準備させていただいて、全ての区民の方に葛飾区の幼保小連携教育についてしっかりとお伝えしようということ今準備をしているところです。早ければこのような話題はもしかしたら無かったかなと思いますけれども、秋口を目指して準備を進めているところでございます。そういった形でまずは大きく広報としてお伝えしたり、各小学校のホームページでお伝えするという形はとっておりますけれども、交流した際には保育園、幼稚園、認定子ども園の方からも在園の保護者の方にお伝えいただくようなお願いも、こちらからさせていただきたいと思っております。

○委員長 丁寧な説明をいただきました。委員よろしいですか。

○委員 はい。

○委員長 これに関して、非常に丁寧な説明をいただきましたが、大事なことですので、大変恐縮なのですが、幼稚園長会の委員と小学校長会の委員にどんな取組か現状をご意見いただければと思います。委員、いかがでしょうか。

○委員 今、おっしゃっていただいたように、何年かは定期的に教育委員会の方が設けてくださっていたのですが、コロナということもあったとは思いますが。それと小学校と園の個人的な連携が進んできているので、形は色々ですが、葛飾区は基本的にブロックで分けていただいているので、そのブロックごとで集まる機会もありますし、私たち

も今年度はコロナと重なっていたので、小学校の授業を私たち教員が見に行かせていただいて、その後で協議会をさせていただく。教員同士で直接幼稚園から小学校ではないですけども、その先の姿を見通すということで連携を進めさせていただいている機会が今年ありました。

あとは小学校同士での連携。小学校へ向けての不安をなくしていきたいという思いもありますし、期待を膨らませていきたいという思いもありますので、その機会は学校ごとで行っております。これからは、教員も会合が少しずつ行えるようになったので、そこで教員同士連携を組ませていただこうと思っています。園に小学校の先生に行事に来ていただくとかということも、連絡が取りやすくなり、お願いがしやすくなっている雰囲気があります。それを保護者に随時伝えていく。委員がおっしゃったので、そのあたりをもっと保護者に伝えていかなくはないかではないか。子ども同士の交流とか連携は随時お伝えしているのですが、それをもう一步深めて、教員同士の連携も「こういうふうにしていますよ」という発信をもっとしていくべきではないかと思いました。そしてもう1つ。私たちは何を大事にしているのか、何を育てているのかということをもっと保護者に分かりやすく説明していく必要があるのではないかと思います。

- 委員長 はい。先生の気付きをお話いただきました。小学校の方から委員お願いします。
- 委員 幼保小連携、とても大事に捉えています。我々にとっては幼保小中まで含めた連携という視点で、先程、先生からもお話がありましたが、教員同士の繋がり、保護者との繋がり、子ども同士の繋がり、そんなことで捉えています。ただ残念ながらコロナの影響をもろに受けたというところもあって、なかなか他校に行ったり、呼び出したり、お招きしたりという事が2年間全く出来ていません。そういう意味では、我々がとても大事にしている中で、コロナの前にはこんなことをしていたということを少し言っていきたいと思います。

幼保小中という括りでいくと、小学校・中学校の交流の時、小学校が授業公開をするときには幼稚園・保育園にご案内をして、先生方が見に来るということもしていました。あと就学前には当然個別にそれぞれの幼稚園や保育園などに我々が出向いたり、中には許されれば、実際に子どもの活動の様子も見せていただいたり、直接そういうこともしていました。これが残念ながらコロナでちょっと厳しい状況でした。お子さんについては、もちろん、学校行事にお招きしたり、入学前には体験という形でそういう活動もしていましたが、これも2年間ほどしていません。

保護者については、これも残念ながら未就学まではもちろん広げきれていないので、そこまでいくと特に未就学のお子さん、これから選定して選ぶという段階で9月から10月が最後だと思いますが、今この時期に9月、10月を広げるかということを検討している段階です。そういう形でとても大事にしている取組です。

- 委員長 ありがとうございます。幼保小、広がりつつある、強化しているというお話でした。これに対して委員はどうですか。
- 委員 保護者の立場からですけど、小学校と幼稚園・保育園の連携で、イメージにあるのが、3学期に「小学校見学」に子ども達が行く日が1日あるのですが、そこだけなんです。コロナ禍で出来ていないですけども、小学校の方で1年生が学校の生活を紹介する動画を作ってくれて、それを幼稚園で見せてくれるということがあったので、これまでの

2年間の子ども達は、それで学校の雰囲気を感じ取れるということはありません。あとは保護者会の中で、幼稚園の先生が小学校の先生とお話をする機会があって、小学校ではこういうことができるように望んでいるので、日々の保育に入れていきますね、ということ年長の保護者会の中でお話をしてくださいました。「特に会議がいつありますよ」とか、「どんな話をしていますよ」というお話は聞こえてくることはないです。小学校の入学を直前に控える年長さんのお母さん達の話題としては、小学校に行くに当たって、どれくらい出来ていないといけないか、「椅子に座って先生のお話を聞ける」とか「ひらがなを全部読めないとだめか」とか「書けないとだめかな」とか、「そういう基準を教えて貰う場所はないのか」とか、そういった不安を抱えているという話題にはよくなります。

○委員長 具体的な分かりやすいお話でした。今のケースで何かご意見や補足説明はありますか。葛飾区でもそうだと思いますが、「スタートカリキュラム」というのを小学校でも幼稚園や保育園と連携して作っていて、今のお話のように「どの程度ひらがなが読めるとよいか」とか、親御さんが直接子どもを見て不安に思われることについては学校側の先生もかなり意識はされていると私も客観的に思います。ですから、ご存知のように今葛飾区のだこの幼稚園でも保育園でも開かれて、「いつでもおいでください」という形をとっていると思いますので、むしろお母さん方が不安に思われなくて率直に言って「今日の授業を見せてください」とか。コロナ禍で難しいでしょうけれども、そういうアプローチも大事だと思うので、そういうふうにしていただけるといいのではないかと今理解したところでした。委員のご指摘から幼稚園・保育園教育に非常に理解を深めさせていただきましたけれども、他に皆さんこの件に関しましてはどうでしょうか。よろしいでしょうか。では、委員の意見の教員という文言に「保育士」という文言を付け加えてより分かりやすくするというご意見だというふうに理解しておりますが、よろしいでしょうか。では、委員お願いします。

○委員 よろしく申し上げます。保護者として、葛飾区に住んでいた立場として、こういった会議が開かれているということも含めて、先生達が他の小学校や中学校と連携をして何をしているのかということが保護者には伝わらないところがありまして。「今日、先生が午後いなかったよ」とか、「幼稚園の先生がこうだったよ」と子どもから聞いても、いろんな事をしているということが、一般の保護者には噂レベルでしか伝わりません。先生忙しそうなんだよね、でもなんで？というのが分からないので、逆に「先生忙しいから悪いか」というところがあります。もっと分かりやすく、こういうことをしているという事をざっくばらんに先生方が仰ることができる場とか、多分保護者が知りたい情報は「本当は小学校の先生はどう思ってるの？」とか、特に第1子だと情報が分からないというのは非常に漠然とした不安で、育ててしまえば育つとは思いますが、やはり子ども達を育てる段階で、保護者同士もママ友レベルの噂話ではなく、もうちょっと大変な先生の実情を知る機会があつていいのではないかとすごく思いました。今回ここに参加させていただいたのは、子育てが一段落したので、実際どのような仕組みがあるのか知りたいのがあります。

アンケートもずっと答え続けてきたのですが、やはり○か×ならいいですが、選択肢が5つあると、「良いには○をしたくないけど、悪いに付けるのも悪いよね」というか。「大体いい」とか「なんとなくいい」という、2か3の感じで漫然とアンケートに答

え続けてきたので、そういうことも含めて保護者にもっと分かりやすく伝えるということ
をぜひ今回お願いしたいと思います。

○**委員長** ありがとうございます。非常に協議の根幹に関わる話でした。とりわけ今、宗村
委員からのご指摘があったのは、小学校の先生達の、例えばこのことに関連付けてよろし
いでしょうか。小学校のアンケートで5ページ「学校教育についてお聞きします」。こう
いう中身をもうちよつと具体的に色々な形で情報提供しようと、そうすると先生の仕事の
様子が分かるのではないかと、というご指摘と私は理解しました。そうしますと今のことで、
もうちょっと先生の理解をしたい、もう一つは知る機会が欲しいというご指摘だったと思
います。もしよろしければ、小・中学校の校長先生の委員の方でお答えできる方があつた
らお願いしたいのですが、どうでしょうか。別の言葉に変えて言うと、先生の姿が保護者に
とって見えないというふうに私は受け取ったのですが。

○**委員** 保護者との連携という意味ではとても大事に捉えていて、先生方の姿を見せるとい
うのとは少し違うかもしれませんが、保護者会であれ、個人面談であれ、とにかく保護者
との連携という意味ではそういう設定を行っています。その内容については、先生方と事
前に打ち合わせで「こんな話をしよう」とか具体的な内容があるので、残念ながら本当に
気軽な内容で先生方の様子を見られるという内容ではないんです。本校の事例で申し訳な
いですが、先日の保護者会、ちょっと曜日的に悪かったんでしょうけれども、久々に対面
での保護者会を設定しました。その前はオンラインで保護者会を設定しました。何とオン
ラインの時には9割以上の方が参加していただいた。対面では7割。7割でも非常に多い
かと思いますが、保護者の想いとか、期待は非常に感じられたので、そういう機会を増や
すということ。あと、それぞれの学校でPTAがあつて、PTAとしてご意見やご要望を
受けて、会長・副会長・役員の皆さまから学校への要望を受ける機会があるんですね。そ
うではないところの声もきちんと聞けるような。あるいは、そういう姿をきちんと見せら
れるような機会を考えなくてはいけないというところですが、なかなか足を運んでいただ
く機会がないということで、検討しなくてはいけないと思います。

○**委員長** リモートでの公開というのもしておられる。それでは委員お願いします。

○**委員** 中学校の場合、今このコロナ禍で変わってきたことは、中学校でも対面で保護者会
をする学校が多くなりましたし、本校もそうです。やはり直接、顔と顔を合わせてお話を
して聞いていただくというのは大変有効だと。話している事についての保護者の方の表情
等もこちらも受け取れますし、その中でもっとこういうことをお知りになりたいとか、そ
ういうことも感じつつ、学校の改善に生かしていければと思いました。

また中学校ですとどうしても卒業後の進路がありますから、進路説明会等については、
中学3年生の保護者を対象にして年2回、学校によっては3回実施したり、これについて
も1年生の保護者の方にもご希望の方には、その時の資料をお渡しして、1年後、2年後
に備えていただくような内容。あと中学校ですと部活動がございますので、これについて
も工夫をしながら、一斉に部活動の保護者会をしたり、または部ごとに日時を設定して、
活動についてご理解をいただいたり、ご協力をお願いしたり、というような事をしており
ます。ただ、今色々なお話を伺った中で、改めて教員の様々な取組とか、中学校で言う
と小学校との連携について発信することはまだまだ必要だなというふうに痛感いたしました
ので、今後、小学校と連携しながら発信を進めて行ければと思っております。

○委員長 よろしいでしょうか。今のお話は非常に大事だと思います。小・中学校の保護者、それから教員調査の中で結果として現れる部分があると思いますので、そういう事が施策に反映されたりすると、委員のご指摘のような部分に届いていくのではないかと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは委員お願いします。

○委員 よろしくお願ひいたします。ICTの活用についての話を質問させていただきます。小・中学校の方ですと、「ICTの活用についてお聞きします」という項目があると思いますが、幼稚園・保育園の方ですと問19の「今後、区が特に充実する必要がある教育～」の中で、17番の項目として「教育のICT化」というものがあるのですけれども、私の考えですが、国が進めるGIGAスクール構想の中でも「就学前教育におけるICT化」というのが謳われていると思うんですよね。なので、この質問だと葛飾区はまだICT化の充実の必要性を考えていらっしゃるのか、どうなのかということがまず疑問に思ったところです。質問するのであれば「今後、就学前教育におけるICT化について、どうお考えですか」とか、「ICT機器が幼稚園、保育園に導入されることについてどういう考えをお持ちですか」とか。ICT化ありきの質問項目がないのは、このご時世においてちょっとおかしいのではないかと思います。

ちょっと余談になってしまいますが、私の子どもが通っております区立幼稚園では、何度か要望書において「幼稚園におけるICT化を進めていただきたい」「ICT機器の導入」「ICT支援員の配置」をお願いしたのですが、葛飾区の方では「考えておりません」という回答があったんですね。それでは、ということでPTA主導で幼稚園のICT機器の導入を進めさせていただきました。教育における問題において、区が率先してするのではなくて、PTA主導において幼稚園のICT化を進めるという事がなされているという現状はちょっとおかしいのではないかと思います。なので、区の方でもうちょっと率先して就学前教育におけるICT化を進めていただきたいと思い、この質問事項においても、それに沿った質問事項をするべきではないかと感じております。

○委員長 今のご指摘は特に問17であるとか、問11の中でICTの項目が選択的に「選べる」ということになっていきますけれども、選ぶのではなく、その前段としてそういうことが必要なのではないかとのご指摘です。今のご時世でちょっと後手に回っているのではないかとするのは、ちょっと言葉がきついですけれども、そういう印象だということですね。これについて何かございますか。

○学校教育推進担当課長 学校教育推進担当課長でございます。教育現場のICT教育に関しましては、昨年度、区立小・中学校にインターネット環境を整えて1人1台タブレット端末での授業を行っております。先程、委員からもお話がありまして、文科省のGIGAスクール構想にのっとりながら、ICT支援員をしっかりと配置するような形で積極的に行っているところでございます。

今のご質問にありました就学前の事に関しましても、国の令和の取組の中でも環境を整えてと謳われているのは認識しているところではございますが、一方で具体的に文科省から「こうしていく」ということが、GIGAスクール構想の部分が小・中学校に比べると出て来ていないところがありまして、委員からお話いただいた就学前のICT教育が今後必要になってくるということは認識しておりますが、現状としましては国の動向等も注視しながら対応を考えて行く必要があると捉えているところでございます。

- 委員長 よろしいですか。今の委員のご指摘ですと、もうちょっと小項目の中ではなくて、大項目の中に「ICT教育の充実をどう考えているのか」ということを入れるべきではないかという話だった気がするのですが、その辺はどうですか。
- 学校教育推進担当課長 一旦内部に持ち帰ってとも思いますが、先程申し上げたとおり、今ようやく小・中学校でのICT教育が途に就いたところということがありまして、全ての保護者の方にとって、今後のSociety5.0というか、今後のICT教育、そういった事を前提とした社会の中で子ども達がどう生きていくかということは、関心事かなと思います。その部分と義務教育の現場である小・中学校でようやく進んできているという部分で、バランスをとりながら検討させていただきたいと思いますので、ご理解いただければと思います。
- 委員長 よろしいでしょうか。私は今のお話は分かるような気がします。とりあえず小・中学校ではコロナでGIGAスクール構想が一気に前倒しになりました。確か3年位前倒しになったと思うのです。ところが家庭においてはかなりもう一般化してきている。他の委員からも意見をいただきたいですけれども。例えば、幼稚園、保育園保護者等の調査項目の8ページの中で「区取組についてお聞きします」という大きな質問があるわけですが、そこに問16から問19まであるわけです。ここら辺りを工夫して家庭における情報教育社会というかICT教育について、何かあってもいいかもしれないと考えられるところです。検討いただいて、積極的な意見だと思うので、小項目ではなくて選択するのではなくて、大項目の中に。今もう葛飾区全体で「家庭の中にもそれが浸透していますよ」ということを謳っても構わないという考え方もあるかと思えます。委員の背景を見て、私が申し上げたんですけれども、ご検討いただけると有難いです。もしよろしければ委員はいかがでしょう。
- 委員 ご意見の趣旨に沿っているか分からないですけれども。コロナ禍で先生と保護者の方がなかなか対面する機会が減っているのは事実ですので、取組の一例としてご紹介しますと、連絡アプリというスマートフォンを使ったアプリを採用してまして、今はペーパーレスの時代でもありますので、園だよりから何から連絡事項、全て連絡アプリを使って配信をしています。連絡網というものは今はございませんので、全てそこに一本化しています。幼稚園、保育園のICT化というのは、教育部分よりむしろ職員の負担軽減を含めてICT化がよく叫ばれています。これは葛飾区も実際子育て支援部から進めていただいているところですが、幼稚園でいうと指導案とか、その日の保育の記録など全てをパソコンで統一して、入力して直ぐにアウトプットが出来るようになっていきます。
- 保護者に向けてですけれども、なかなか保育参観であるとか、今は頻繁にできる状況ではございませんので、私の園もそうですし、他の園もしているのですが、ドキュメンテーションといいまして、実際の保育の現場、子ども達の様子を画像に収めてそれを毎日配信しています。これはお子さんの写真をどうぞ見てくださいではなくて、園ではこういう活動をこういう目的のためにしていますということをご理解いただくために常に発信している。これはほぼ毎日発信をしています。画像はそんなにたくさんではないですけれども、こういうことをやっています。これは話が少し広がってしまいますけれども、保護者の方に理解をいただくことはもちろんですが、お父様にも見ていただいて、出来ればご家庭でお子様の教育について夫婦間での話題が広がっていくようにという狙いもございます。

実際の教育現場、子ども達も含めた現場で使う場合には、ICTとは言えないとは思いますが、デジタルカメラを職員が持っていて、子ども達が例えば園庭で何かを発見したり、遊んだりする様子を画像に撮って、そのまま保育室で見ることができるようになると。もちろん、幼稚園・保育園は実体験を一番重要視していますので、実体験をした上でそういったものを活用して、子どもがすぐに思い出せるようにとか。そういうことは実践していますが、いわゆる、小学校でいうタブレット端末を持って云々ということは園児ではまだ難しいといった状況です。

○委員長 ありがとうございます。委員から幼稚園・保育園の立場からお話していただきました。この件については、他の皆さんはいかがですか。

○指導室長 指導室長でございます。委員からお話がありましたとおり、就学前教育の中でICT機器をどのように活用していくかという事は、正直申しまして、研究と申しますか、先行事例も含めて検証が深められていない実態でございます。やっと小・中学校に配置が完了いたしましたして、小学校、中学校でも今その活用をいかに進めていくか、試行錯誤の段階です。そして、実体験や遊びの中で学んでいく就学前の中で、保育、幼児教育の中でICT機器をどのように活用していくかは、本当にこれからです。ぜひ検討していきます。幼稚園児、保育園児の発達段階の中で当然1人1台タブレット端末を渡して操作を学ばせるというのは全く検討外だと思いますし、日々の日常的な保育教育の中でどのように活用していくかはまだ検証段階にあると捉えています。しかしながらこのような社会の状況や目指していくべき教育の方向性の中で大変重要な課題だと思っておりますので、例えば映像を即時に見せるですとか、自分の姿を客観的に見せるICTの良さを就学前の子ども達に体験させていく。入口のツールとして取り入れていくという方向は大変重要かと思っておりますので、慎重に検討を進めてまいりたいと考えております。

○委員長 ありがとうございます。では委員どうぞ。

○委員 園長先生がおっしゃったとおり、小学校のICT教育と幼稚園のICT教育の活用というものが全然違うものだという事は私も認識しております。だからこそ早い段階で小さな子ども達、就学前の子ども達にも早い段階で触れさせることが重要だという認識はしていただけたと思うのですけれども、園長先生がおっしゃったとおり、教職員のスマートフォンを使ってそれをしているということ自体がそれはおかしいと思ったんですね。私物ではないですか。

○委員 すみません。教職員の物は使っていません。

○委員 え、本当ですか。では何を。

○委員 保護者に連絡するのに、園のスマートフォンです。

○委員 写真を撮るといのは。

○委員 園のデジカメです。

○委員 幼稚園のデジカメということですね。それがうちの幼稚園になかったもので、PTA主導でタブレット端末を導入しましたということをお聞きしました。先生のものを使うのはおかしいということと、先ほどの幼保小の連携を謳うのであればICT教育にも連携が必要だと思うので、幼稚園とか保育園。保育園がGIGAスクール構想に入っていたかちょっと分からないですけれども。ちゃんと「なんでYouTubeを見るのはダメなのに、スクラッチをするのはOKなの?」「なんでタブレットは時間を決められてい

るのに、これを見るのはお母さんと一緒なら大丈夫なの？」とか。絶対、子どもは疑問を持っていると思うのですよね。そういうものにも親がどうやって答えていくのか、ということが重要だと思うので、質問項目に入れた方がいいのではないかと思います。

○**委員長** ありがとうございます。非常によく分かるような気がいたします。今皆さんのお手元にある幼稚園、保護者向けの調査項目で言っている 19 番あたりの問題もそうですし、小学校教員の 8 ページ 3 番の ICT 教育ですね。それから保護者向けの小・中学校教員の「ICT活用についてお聞きします」というところ、小学校の方ではきめ細かに ICT 教育を位置づける質問項目がある。そういうことを思うと今、ご指摘のように幼稚園の方で大項目の中にそれがあると、もう少ししっかりするかなという印象はありますので、もし良かったら事務局で検討いただいて、ご配慮いただけるとありがたいと思います。

今、具体的にどこというのは難しいかもしれませんが、ぜひ、委員のご意見、或いは幼稚園、保育園の取組を踏まえてご検討をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。今の件についてはここまでにしますけれども、もしよろしかったら、リモートでご参加の委員も積極的に声を出していただければと思います。

○**委員** 本日はリモートで失礼します。前回ジェンダー平等や多様性について質問項目に入れて欲しいというお話をしました。設問を入れてくださって大変ありがたいと思うのですが、実際見てみますと、保護者には聞いているが、教員には聞いている、社会教育関係者には聞いている、という内容になっているんですね。前回私が発言した後に、委員長からも、横串でこういう大事なダイバーシティの問題があぶり出せるような設問があった方がいいですよ、というアドバイスがありました。けれども、実際そのような構成になっていない等、不足があるのではないかと思います。私としてはこの教育振興基本計画にジェンダー平等とか多様性の視点の項目が入った方が良く思っているのですが、このアンケートの内容ではそうならないのではないかとこのように思っております。私からはそちらの点を指摘したいと思います。

○**委員長** ありがとうございます。委員からのご指摘を具体的に言うと、幼稚園保護者の中に、9 ページの中の 19 の項目に「ジェンダー平等や多様性の尊重に関する意識の育成」というのがありますけれども。他の委員さんもお考えがあったらどうでしょうか。委員のお話のように幼保小の保護者 8 ページ、9 ページにある問 19「区が特に充実する必要がある教育に関する施策・取組は何ですか」の設問の中に選択肢として挙げられていて、それが今言っているジェンダー平等だとか、多様性の問題、人権教育に関することというのは、私が思うに全部の施策に関わる訳ですね。そういう意味では、今この幼稚園・保育園保護者の 8 ページのところでは、「区の取組についてお聞きします」という中に、どこかに多様性に関する質問項目であるとか、大きな項目としてあってもいいかなと私は思うところもあるのですが、委員がおっしゃることはよく分かる話ですが、他の委員の皆さんはどんなふうに考えられますか。

○**委員** 保護者には聞いているけど、教員には聞かない内容にした何か理由があるのでしたら教えていただきたいと思います。

○**委員長** そうですね。確かに教員調査にはそういう項目がなさそうな気がします。どうでしょうか。例えば、小・中学校教員の方でいうと 10 ページ、11 ページ辺りの職場環境についてお聞きしますとか、教員の方にお聞きしますとかのあたりにそういうのも絡めておく

というのが一つあるかもしれないですね。

○**指導室長** 指導室長でございます。教員側にも確かにジェンダー教育、多様性の尊重は大切な課題だと認識しておりますが、小・中学校向けアンケートの3ページ。項目10番ですね。ジェンダーの課題につきましては人権教育のひとつの課題として認識しているところですが、今後、例えば教員向けの11ページ問19、学校内でどのような研修を受講したいですか、こちらにも人権教育研修というところがございますが、ここで例えばカッコ書きでジェンダーを入れる、そういうところできちんとそういった視点を持って欲しいと、そのような投げかけは必要かと考えます。事務局の方で検討させていただければと思っております。

○**委員長** はい。そうですね。具体的にカッコ書きを入れて検討していくというお話でした。その件は、委員よろしいでしょうか。

○**委員** はい。承知しました。基本的には今やっている事について聞いているアンケートなので、今は人権教育という言葉の中に統括されているので、出てこないのだろうという推測はできるのですが、新しい基本計画の中には、もう少ししっかりと入れ込む事で、次のアンケートにはジェンダー平等とか多様性という文言が入ってきたらいいなと思っておりますので、ぜひ引き続きご検討をお願いしたいと思っております。

○**委員長** そうですね。アンケートの中から今回のように修正を加えて、施策に生かしていくという委員の前向きなお話をいただきました。ありがとうございます。この件に関して、社会教育の調査の中にも同じように特に見られないというご指摘を委員がされました。社会教育の項目に見当たらない部分がありますが、社会教育の質問の所でお答えがあったら、生涯学習課長、もしよろしければ、今の委員からのご質問にお答えをいただければお願いします。

○**生涯学習課長** 生涯学習課長でございます。今ご指摘をいただきましたジェンダー平等であるとか、多様性については、大変重要な課題であると認識をしております。全体の質問のバランスから考えますと、やはり保護者であるとか、教員だけに関わらず、社会教育の分野においてもその部分は含めて検討させていただければと考えております。

○**委員長** そうですね。今、お答えのように社会教育の色々な所に関わると思いますので、ぜひ、委員のご意見をご検討いただくとありがたいと思います。では、よろしいでしょうか。貴重なご意見をありがとうございます。

○**委員** ありがとうございます。

○**委員長** 他の委員の皆さんはいかがでしょう。委員どうぞ。

○**委員** 学校と地域の連携についてお尋ねしたいと思います。どのアンケート調査の質問を見ても、学校と地域の連携というのは学校支援の活動としか読めない。ただ学校と地域の連携というのは、学校支援の活動だけではないですね。中の項目を見ますと。

○**委員長** どのあたりですか。

○**委員** 全部です。学校と地域の連携についてという項目がどこにもあるのですが、「学校と地域の連携について」の小項目で出ている所は、「学校と地域の連携についてお聞きします」。これは小・中学校保護者ですが、これは「あなたは学校支援の活動に参加していますか」と聞いています。要するにここで言っていることは、「学校と地域の連携」イコール「学校支援の活動」としか読めないんですね。ただ地域との連携と言っている以上は、学校支援の

活動だけが地域との連携ではないと思うのです。ここに出ているのは、その連携を深めるために1～9まで色々出ていますが、よく読んでみると、学校に来てください、学校でやりますから来て下さい、というのしか見えないんですね。たった1つ、地域活動への参加だけが、学校から外へ出て地域のイベントに参加、協力しましょうね。あるいは盆踊りだとか防災訓練とかあると思うのですけれども、そういったところにしか見えない。このあと、こういった人たちがアンケートに答えて、学校の先生はいなくなってしまうかもしれませんが、保護者は地域に残るとすれば、私達としては、保護者の方たちは、いずれ地域の人材として活動をしていただきたいわけです。だから学校支援の活動が地域の連携と思われるので、そのあたり、もうちょっと言い回しがあってもいいのかなと思いますので、ひとつお願いしたいと思います。

生涯学習課長がおられますけれども、私、かつしか区民大学の理事もやっているので、その中でもやはり地域の人材のための、教育のための、といったそういった活動のための講座もこれから設けていきたいと思いますという話のある中ですので、ぜひ、将来地域に還元できるような取組を考えていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員長 はい。地域との連携というのは、お互い双方向でなければいけないのではないかとこのご指摘ですよね。

○委員 そうです。

○委員長 今の件についていかがでしょうか。生涯学習課長、いかがですか。

○生涯学習課長 ありがとうございます。区民大学で色々お世話になっております。そういう意味では、一方向では無く、双方向でのやり取りを踏まえた中での設問の作り方というのは必要かと思っておりますので、今のご意見も踏まえながら、どんな形でここに組み込めるか、どういう設問が、というところも検討させていただきたいと思っております。

○委員 よろしく願いします。

○委員長 今の話はよく分かる話で、私の言い方でいうと、委員のお話は、学校は地域の人たちに来てくれということとはよく言うけれども、学校から地域に来てくれないではないかと。どこでも聞く話ですので、そこは大事だと思います。フィフティー・フィフティーにしていくという点では検討していく必要があるということで、とても大事な指摘だと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。委員お願いします。

○委員 地域ということでひとつ。葛飾区には家庭教育応援制度というものがございまして、私どもの園、もしくは保護者の方がコロナ禍までは毎年利用させていただいていました。今年は2年振りに再開した次第ですけれども、そういった補助制度が葛飾区にはございまして、それはある一定程度効果は果たしているのではないかなと思っております。私どもは地域なので、在園時の保護者以外にも地域のご家庭に向けて、なかなか告知は難しいですけれども、子育て応援という趣旨から子育てに関する様々な講演会を、先生を呼んで行ったりしています。そういった取組が実際行われていることを委員の方々にお知らせさせていただきます。

○委員長 いい情報ありがとうございました。非常に貴重な情報だと思います。それでは、あと40分弱になりましたので、時間も気になりますが、ぜひ貴重なご意見をいただきたいと思っております。よろしかったら、今まで発言のなかった委員の皆さんで自分が言ったことは改善されているかどうか、網掛けで丁寧に分かりやすく書いてありますので、そのあたり

で指摘いただければと思います。今までおっしゃった方も追加があったらおっしゃっていただいて、「こういう所がいいですよ」とか、指摘するだけでなく「ここがいいぞ」ということも大事ですので、それも含めてご指摘をいただければと思います。

○委員 それでは気が付いたところで、小・中学校教員調査票の7ページ、問8ですが「授業の充実に向けてあなたが特に困っていることはありますか」のところ、○を1つということが一番困っている事を選択すると思いますが、この質問事項ですが、もし自分が日々授業をしている教員として選ぶとすると、ちょっと選びにくいなど。例えば1番「何から取り組めばよいか分からず、後回しになっている」。小・中学校で多くの教員がいる中で、このようなことを考えている教員が全くないかどうか分かりませんが、後回しにしている教員はいないのではないかと。やはり日々の授業の中でどのようにしたら良い授業が出来るかということもありますので、こういう質問ではなく、例えば「習熟度に応じた充実した指導の実現」とか。2番、3番は物理的なことですが、4番の「主体的・対話的で深い学びに関する理解が不十分」で指導しているのも、葛飾区の子ども達にどんな教育をしているのか、ということになりますので、ここも「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的な指導方法の確立」とか。5番の「学習指導要領の趣旨に沿っているか確信が持てない」というのも、もしこういう教員が1人でもいたらとんでもないことです。「学習指導要領に基づいた確実な指導の実現」とか、そのように教員が今1学期を経て、2学期に授業をする中で大きく課題とするような項目にちょっと修正をいただいた方が、より教員の授業改善に向けての実現とかがアンケートに反映されるかと感じております。

○委員長 ありがとうございます。非常にいい指摘だと思いますので、ぜひ改善していただけたらと思います。ちょっと後ろ向きな感じがしますね。続きまして、委員お願いします。

○委員 事前に資料を送付していただいたので、見る事ができたので良かったと思っています。事務局の皆さんありがとうございます。その中で気が付いたことです。アンケートの方法は紙ベースとスマートフォン、インターネットで出来るということですが、30分で途中保存が出来ないというのがちょっと引っかかっていて、技術的に途中保存が出来ないのかどうかということ。もしそうであれば、実際、学校評価の中で、例えば、小・中学校の保護者向けには3ページの「お子さんが通っている学校のことについてお聞きします」という項目がありますが、改めて学校評価の中で似たような質問が多いので、これを上手く利用して、少しでも短くした方がいいのではないかとすることがありました。

それから、資料の中で小・中学校の保護者の3ページ、問7だけ「コロナ禍の暮らしで」という言葉が入っていて、他はコロナのことが全くない中で、この設問だけ「コロナ禍の暮らしで」となっているのが、少し気になっています。そうすると問7の性質上、正当な答えが出てくるのかなと思っていて、どういう基準で付けているのか。現状を踏まえてだと思えるのですが、例えば問8のスマートフォンもコロナ禍でかなり増えているのも事実ですので、「コロナ禍の暮らしで」というのがここだけ入っているのが気になりました。

○委員長 そうですね。今のことについてお答えになることがあったら、事務局の教育総務課長お願いします。

○教育総務課長 それでは、私からインターネット回答の回答時間について、途中保存ができるのかという技術的なお話ですが、結論から申し上げますと、出来ないという状況です。前回もご指摘をいただいて、30分かかかるような回答時間だとご回答いただけ

いのではないかと、というお話をいただきました。そうしたご意見も踏まえていくつか削除した設問もありますが、確かに委員がご指摘のとおり、まだ相当な時間が掛かりますので、どこまでご協力いただけるか、少し不安な点もあります。とりあえず、ご回答としては途中保存が出来ないという状況の中で、あとはどこまで回答率を上げられるかというところで努力していきたいと考えております。

○**委員長** もうひとつ、普段の学校の調査と重なるのではないかとのご指摘もありましたが。これも含めてちょっと削除できる点があれば検討していただけるとありがたいと思いますが。いかがでしょうか。

○**教育総務課長** ご指摘を踏まえて検討させていただければと思います。

○**委員長** ありがとうございます。よろしく申し上げます。では委員お願いします。

○**委員** 先程のICT化にちょっと戻らせていただくのですが、教員の質問のところで、「ICT活用についてお聞きします」という質問の項目のアからタですが、教員の負担軽減というか、ICTを使うことで分かりやすく共有できるという活用のみになっているので、委員もおっしゃったように、私達が使いたい、なぜICT化したいかは、幼児が体験から学ぶのですが、それを私達が教育部分のツールとして使えるというふうに捉えているので、そういった所をもう少し加えていただきたいと思っています。文科省の中央教育審議会の答申でも教育環境の整備ということで、幼児の具体的体験が重要であることを踏まえICT等の特性や使用方法等を考慮した上で、幼児の直接的、具体的な体験を更に豊かにするための工夫をしながら活用するものとして有効であると言っているので、幼稚園の方でも私達はそういった意味でICTを使いたいと思っている者が沢山いると思うんですね。そういう項目をここにに入れていただいた方がいいのではないかと考えます。

○**委員長** ありがとうございます。この件も含めて、確かに5ページの件は教員のことですね。子ども達のICT化について質問する項目があってもいいのではないかとのご指摘でした。ぜひご検討いただければと思います。では、委員お願いします。

○**委員** 2点ありまして、1点は先程も申し上げましたが、答える側として5択というのは非常に多いので、出来たらもうちょっと少ない方が答えやすいというのと、先程の委員の方と意見が反対になりますが、教員の資料の中で「特に困っていることはありますか」という所で、後ろ向きな発言が、とおっしゃっていたかと思いますが、無記名で個人が特定されないアンケートだからこそ、例えば本当に困っている方がいて、唯一、○が出来る可能性もあるかなと考えると、アンケートの中で先生も大変な事や分からない事が多分あると思うので、前向きな事も大事ですが、こういう項目が、本当に後回しになって困っている先生がいるとしたら、こういう質問も私の中ではあるかなと思いました。

○**委員長** 今2つございました。5択は選択が多いのではないかと、ということですが、場合によっては、これは検討いただきたいですけれども、私もそれはちょっと思うところがあって、どうしてもアンケートを5択にすると、まあまあ評価になってしまうんですね。適当に真ん中に付けちゃえ、という感覚にどうしても陥ることがある。それを避けるためには3を除いて4択にする方法がある。これをちょっと検討いただけるとありがたいと思っています。他のところは3択になっている所もあるので、その選択肢の在り方を考えるのも1つの方法かなと思います。

もう1つは、先程の教員の質問項目ですね。先生方が問8の質問「あなたが特に困って

いることはありますか」と言っているのです、今のお話のように「後回しになっている」とか、ひょっとしたらあるかなという気もしますね。先程の委員の話と今の委員の話を混ぜて、ここの所を検討していただけるとありがたいです。先生方が率直な意見が言えるような形も無記名であればいいかなという話ですので、よろしくをお願いします。今のようなことでよろしいでしょうか。ちょっと私の方でまとめてしまいましたけれども、よろしくをお願いします。では委員をお願いします。

○委員 幼稚園、保育園保護者アンケート、小・中学校保護者アンケート、両方とも学年的に該当するので回答することになるのかなと思ひまして、そんな目で見えていくと、区の実組で、例えばあいさつ運動の評価とか、朝ごはん食べようカレンダー、そういった区の実組一覧が書いてあって、そこを見て「区でこういうことをやっているんだ」ということを知る機会にもなる。私はPTAとかをやっているのだからこういうものはよく目にするのですが、やっていなかったら情報を見たとしても通り過ぎてしまうような事ばかりなので、このアンケートをきっかけにもうちょっと学年が進んだらこういうものに参加していくんだなということを知ることができるので、ひとつ勉強になるというか、アンケートすることで区の実組を知ることができていいなと思ひました。

○委員長 全くそう思ひます。アンケートというのは意識付けにもなるのですね。非常にいい話をしていただきました。ありがとうございます。では委員をお願いします。

○委員 ちょっと小さなことですがけれども、最初の方にこの基本計画がどれくらい認知されているのかという話があったと思ひます。この会議に出るに当たって、周りの友達に教育振興基本計画策定検討委員会というのを言っても「？」となるのですけれども、「かつしか教育プラン」と言うと「ああ、あれね」という方が多かったので、「葛飾区教育振興基本計画」というのは正式名称なのかもしれませんが、区民の間では、結構、「かつしか教育プラン」という名前を通っているんですね。このアンケートの中にその「かつしか教育プラン」という名前が出ていないのではないかと思ひるので、「これがかつしか教育プランのアンケートだ」ということを分からないままアンケートに答えることになる方もいるのではないかと思ひました。「かつしか教育プラン」という名前を出しては駄目なのですか。こちらの方が、区民には認知があると思ひますが。

○委員長 面白い質問です。教育総務課長をお願いします。

○教育総務課長 プランという名前が行き渡っていることをお話しいただきました。そういう名称で区民の方に知られているというのは幸いなことかなと思ひています。正式名称は「教育振興基本計画」ですがけれども、副題と申しますか、そういったこともこの検討委員会でご検討いただくのも1つの考え方かなと思ひています。区民の方に親しみを持って知っていただけるような名称も考えていければなと思ひてございます。

○委員長 どうでしょう。私もよく「かつしか教育プラン」と学生たちと学ぶ時によく使わせていただひています。例えばこの中の最初にアンケート調査とあって、波線が引いてあって、カッコしてこちらが入ると行政的には納得できないですか。そういうカッコ付けではだめという感じですか。そういうことを委員はおっしゃったのかと思ひますが、どうでしょう。

○教育総務課長 現行の計画の名称が「かつしか教育プラン 2019～2023」という愛称で出ておりますので、「現状の」という注釈を入れながらご案内する方法もあると思ひます。

○委員長 非常に明快なお答えをいただきましてありがとうございます。リモートの委員いかがでしょうか。

○委員 よろしくお願ひします。アンケート調査の調査項目については、特段コメント等はありません。先程お話がありました葛飾区教育振興基本計画のアンケート調査の冒頭に教育振興基本計画のURLを記載していただきましたけれども、こちらの調査票は恐らく紙で配付されるのではないかと思っております、その場合、ネットと異なってワンクリックでリンク先に飛べるわけではないので、あまり効果的とは言えないのかなと思ひました。ですので、代替案としてですけれども、参考資料の用語解説というのを付けていただひいていまして、そこに教育振興基本計画の図解などを添付してみるのはどうかなと思ひましたので、提案させていただきます。

○委員長 なるほど。今の提案は、用語解説を載せたらどうかというお話。どうですか。技術的なお話でしょうけれども。

○教育総務課長 例えばホームページのどこの階層にあるのか、そうしたことも含めてアクセスしやすいものを考えていきたいと思ひます。用語解説の所に概要みたいなものを付けてしまうと分量としてどうなのかなということもありますが、そういったことも踏まえて、より分かりやすい対応を考えていきたいと思ひます。

○委員長 そうですね。今委員がおっしゃったように、ワンクリックしたら跳べるような形になっているので、もし技術的に可能であればご検討いただきたいと思ひます。ありがとうございます。では、委員お願ひします。

○委員 私からは、先程指摘した事のみで特にコメントはありません。

○委員長 続いて、委員お願ひします。

○委員 私は、前回も申し上げたのですが、一応、地域の代表で来ておりますので、そのあたりのお話をしたいと思ひます。コロナであるにしろ、飲食は一切していませんので、今、イベント的なものは、飲食なしでできる、例えば美化運動をやっています。これは自分の家の周りを掃除して綺麗にしましょうね、綺麗な所だと置く人がいませんから。特にたばこなんかは拾って拾って拾いまくると、だんだん本数が減ってきます。

それからイベントですが、盆踊りは、今はほとんど出来ていません。やっと区が9月3日にやりますけれども、それ以外はほとんど止めています。敬老会の時に70歳以上の皆さんのお祝いをする式典があるのですが、そこでお年寄りが、結構、趣味を持っておられるので、踊りだとかいろいろな催し物をやっていたのですけれども、これも飲食が入りますので今は止めている。それから防災訓練、餅つき、役員による新年会。行事等はそういうことをやっています。

普段やっているのは掃除とパトロールです。パトロールというのは、どこの地域でもやっていると思ひますが、役員がやっている。大体、男女の役員が最低2回、自分の地域を周っています。町会は地域振興課で管轄してもらっていますが、前地域振興課長がいますが、相当細かく連携をとってやっています。一番の問題は加入者が少ないということです。区長も非常に心配している。特にマンションが入らない。行っても100%か0%というのがマンションの加入状況です。そういう状態なので、実際に町会組織を作っても地域の半分くらいしかいないわけです。常時連携している仲間が半分しかいない。それで地域を守っているのは、先ほど委員が言っておられましたが、民生委員か町会役員か。みんな地域

はそれで被っている。そういうのがどうなのですか。

さっきも話が出ましたが、学校との連携は、学校は子どもの世界ですから、子ども会も町会で作っていますけれども。年間でいくつかイベントをやっているのだけれども、学校と直接というのはあまりないのです。こちらから行くしかない。向こうから下りてくることはない。子どもたちは下りて来てくれるんであって、イベントの会場に来てくれる。そこに先生が付いてきてくれる。6年の子が多いと、6年の担任の先生がいると子どもたちが良い盛り上がり方をするんです。そういうことを地域ではしております。

私は年寄りですから言いますと、今日本人に足りないのは、日本語しか喋れない人が徐々に上がってきていますけど。やはり英語が喋れるようになって欲しい。小さい子はものすごく反応が早いですから、教え方ひとつであつという間に覚えてしまう。さっき、どなたかがおっしゃっていましたが、スマホなんかものすごく早く覚える。そういうことを子どもさんが興味を持ったところでやっていただきたいです。興味をもったら我々が想像つかないくらい物凄い力を出しますから。テレビでやっていますよね。子どもたち、凄いですよ。あれはその項目が大好きだからですよ。自分の趣味や勉強や研究だから。大学の研究生がやっているような研究をやっているような気がしますので、そういう教育をお願いしたい。

それからICT。先程もいわれたようにコンピュータが出来る人が日本を出て行きますので、プログラマーとか、凄い人たちはアメリカか中国に行っていますので、とにかく日本で何とかするような恰好で、区も都も力を入れていただきたいと思います。

子どもたちはどういう人生観をもっているんだろう。どこで進路を決めるのだろうか。というのは、僕の経験から言うと、僕は大学に行きませんでした。高校の時におやじから「行かせる金がないからもう高校で終わりだよ」と言われましたので。そうしたら、高校しかありませんでしたので、昭和40年当時、工業の方に行くのか、商業に行くのか。それで選んだのは、商業に行ったんです。たぶん中学校の時に大体どうするか決めますよね。人生観ってあるよね。資格をとるとか。理想はたぶん親御さんも持っておられるだろうし、お子さん達もみんな持っていると思うので、好きなものを生かして最後まで送れば最高ですよ。この意見で僕はあまり中身については言いませんでしたけれども、本当にお父さんお母さんの本音を聞きたいです。小学校、中学校にはこういう事を求めていますよという事をどういう形でヒアリング出来て、そういう意見交換ができるようなことがあるとベスト。そういう話し合いをしていただきたい。

○委員長 ありがとうございます。地域自治の観点から子どもの未来社会へ向かう話をして、この振興計画の先の話までしていただきました。非常に具体的な話でありがとうございました。委員お願いします。

○委員 一番言いたい事は言ってしまったのですが、あと細かいことでちょっと気が付いたのですが、幼稚園・保育園保護者と小・中学生保護者で生涯学習、スポーツについてお聞きしますというところで、あなたはどのような生涯学習活動に興味や関心がありますかというところがあります。今、環境問題とか、自然問題に関心が高い人がいます。テレビ番組でやっていて、それから、だいたい外来種とかにも関心が来ているようにも聞いていますので、そんな自然を守る、自然環境に関する活動というのも、この生涯学習活動の中に入れてもいいのかなと思いました。

○委員長 そうですね。葛飾区も自然の豊かさは相当あると思いますので、ちょっとそれをご検討いただければと思います。では、委員お願いします。

○委員 度々すみません。幼中の連携について少しお話をさせていただければと思います。葛飾区では「職場体験」といって、中学生が色々な職業を体験する機会を設けていただいています。私どもの園にも職場体験で中学生が来ています。ここ2年ほど対面では出来なくて、去年はオンラインで中学生と園の職員が話をさせていただきました。今年はまた復活しますけれども、全ての中学生が幼稚園、保育園に行けるわけではないですが、来ていただいた中学生が非常に幼稚園で生き生きと活動しています。特に最初、男の子が園児とどう接していいかわからなくて黙っていると、園児から関わって行って、中学生の方も心を開いて。特に男の子に多いですが、最終日に涙を流して帰るといっても素晴らしい光景があります。これはぜひ引き続き行っていただきたいということと、一部ではありますけれども、幼中の連携が出来ているということ。あと職場体験に来た中学生が実際に幼稚園教諭を目指して大学に入りましたと、入った後に園まで報告に来てくれたことが結構あります。そういった意味でも職業選択に非常に有効なのではないかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。職場体験、いい話でした。委員お願いします。

○委員 2回にわたってのアンケート。これで素晴らしいアンケートが出来たのではないかなと思いますが、これを出来るだけ回収率を上げるということですね。校長先生方もいらっしゃるんですけど、保護者も含めて、回収率を上げていただきたい。上げれば、より良い内容で次の検討が出来るのではないかなと思います。どうかその辺は現場の先生方、ご協力をいただいて、いいアンケートが多く集まることを期待したいと思います。

○委員長 非常に大事な意見をいただきました。ありがとうございます。では委員お願いします。

○委員 アンケートにつきましては、教育委員会とか、教育長の先生方、並びに色々な方とお話する機会も多々ありますが、何ら問題なく読めました。非常にいいアンケートだと私は思います。ありがとうございます。

本日のお話ですけれども、やはり我々子育てが終わって少し知恵のついた人間の考えていることと、今、PTAの現場で一所懸命に子育ての真っ最中の方と随分意見が違うんだなと思いつつ、私は聞いておりました。例えば葛飾区73校の小・中学校に一人ずつ委員がおりまして、その中で情報交換をしていますが、幼稚園の話は全く上がってこなかったんですね。今日ICT教育も幼稚園までやっているのかと驚いた次第です。正直申しまして、小学校・中学校のICT教育というのも学校の先生方の教育負担を減らす方向性に重きを置いてやっている活動であって、幼稚園のうちからそういう事を習わせてマイナスの面はないのかなということも正直思いました。目に対するマイナスの面とかですね。

例えば、我々が計算機が出来た時代にそろばんが出来ない。日本人特有の暗算が段々できなくなっており、計算機を持たないとつり銭も勘定できない。ハワイに行ってもつり銭の勘定が出来ない日本人が沢山いる。昔はそんな事はなかった。そろばんの珠をはじきながら、自分がいくら払って、いくら返ってくるという計算がサッとできたのが日本人。今はできない。ICTでもしかしたら、漢字の意味が分からない人がいるのではないかな。箸と橋。漢字で書けば違いますよね。パソコンでブリッジと打つか、手で持つ箸を英語で打つのか分からないですけれども、そういうのも考えると日本人らしさがなくなるのではないかな

いかと僕は聞いておりました。

もう1点、学校と地域の関わりについて。確かに学校に来て下さいですが、先生方は外に出て来づらいですよ。なぜかという、非常に仕事量が多くて、その負担を軽減しようという動きが日本中起きているわけで、それを出て来いというのはちょっとどうかなと思うのですが、地域からしたら出て来てほしいですね。校長先生、副校長先生、所管の先生はなるべく出ていただけるんですが、教員と接する催し物というのもなくなっている。

最後に一番「えっ」と思ったのがジェンダー・多様性の話。ああそういうところもこういうもので取り入れていかななくてはいけないのか。非常に勉強になる会合です。

教育委員会の方々は各意見を聞いていただいて、なぜそれを受け入れられないのか、こういう言い回しをしているかという事をはっきり言っていただいてもいいのではないかなと思ひながら僕は聞いておりました。

○委員長 貴重なご意見ありがとうございます。委員お願いします。

○委員 今回の資料を事前に送っていただきましたので目を通すことができました。ありがとうございます。1点だけ気になる所がありまして。幼稚園・保育園保護者のアンケートで3ページのセの所ですけれども、「地域活動等で、人のために役立とうとする気持ちを育むこと（ボランティアに関わる）」と書いてありますが、ちょっと他の項目に比べると課題が大きいというか、5歳の子を育てている保護者の方に宛てる項目としては難しいかなと。社会教育関係者のアンケートで同じような項目が9ページにあって、家庭教育の中で特に大切なことは何だとお考えですか、というところに、人のため、社会のためということを教える、というふうになっています。その方が分かり易いかなと思います。ちょっとセだけ難しく、5歳の子どもにどういうふうに教える事がそれに該当するのかなと思ってしまいました。

○委員長 大事なご指摘をしていただきました。ぜひ事務局の方でも今の指摘のところ、両方見比べて検討していただきたいと思います。確かにそうですね。ちょっと難しいというか、ここに相応しいかなと思います。委員、お願いします。

○委員 よろしくお願ひいたします。資料を見させていただいて、前回の時にメールでご意見をさせていただいております。その中で教育振興基本計画に反映することが出来ないの、それは出来ませんというご意見でお返事をいただいたと思っております。その中で全てのアンケート調査を見させていただいて、5択とかになっていない所に関しては、やはり「その他」ということで意見を述べる欄もついておりますので、この形のアンケートでよろしいのではないかと感じました。何よりもこのアンケート調査を基にしてこれから先の葛飾区の教育を考えて行く事ですので、それに対して必要なアンケートの設問を入れていただければと思っております。

細かい事で言いますと、この案はこの形で出るわけではないですよ。黒く変更された部分の所がちょっと見づらいので、そこは変更していただきたいと思うのと、回答例の所で2番目が②になっていますが、これは間違いですか。あと、社会教育関係者の11ページを見ていただいて、回答例の①効果の程度の②と、②今後の方向性の所の④のところマルがついているのは意味があるのでしょうか。

○委員長 大切なご指摘をいただきました。形式を整えていただきたいですが。

○教育総務課長 (案) が付いていることや、網掛け、見え消しについては、本日の会議用

に委員の皆さまに分かりやすくということで対応したものでございますので、本日のご意見を踏まえて最終化するに当たりまして、（案）を取ったり、網掛け部分を取ったりしてまいります。今ご指摘いただいた回答例等についても、分かりづらいということであれば少し整理したいと思っております。

○委員長 ありがとうございます。委員の皆さんから非常に貴重なご意見をいただきました。では委員お願いします。

○委員 よろしくお願いいいたします。今日は皆さんの色々な意見を聞かせていただいて、私も大変勉強になりました。その中でいくつか気になったことがありましたので、それについて意見というか、感想を述べさせていただきたいと思います。

まず1つは、委員の方から先程ありましたが、子どもの見守りというか、地域と学校の連携。幾つかご意見をいただいたのですが、このアンケートの中にはそういう項目はないですけれども、登校時の子どもの見守りの大切さとか、そういうことについて、私も実は子どもの見守りについては色々取り組んでいまして、その中で例えば保護者が子どもたちの登下校の時に水やりに出て子どもを見守るとか、やはりそういうことがすごく大事です。昔の街ならそういうことがあったのが、テレビが普及して、みんな朝、街に出なくなったり、今ならスマホなどを家で見ていて街へ出てこなくなったり、ということもあるので。何かそういうことの大切さみたいなこともどこかにアンケート項目としてあった方が、色々な人たちに伝わるのではないかと感じましてお聞きしていました。

それから、教員が忙しい実態が保護者に伝わっていないということがご意見としてありましたけれども、教員と保護者の距離を詰める意味でもそういうことがあっていいのではないかと考えていました。

それから幼稚園におけるICT化の必要性みたいなことで色々ご意見が出たんですけれども。諸外国では、例えばお隣の韓国では、15年くらい前から幼稚園にICTが入っていて色々な使われ方をしています。日本では保育要領に明記されていないという事でなかなか取組が前に進んでいない。例えば動物の鳴き声ですとか、幼稚園のうちからひらがなとか計算を教えるのにどうかという意見はありますけれども、そういうことに使ってもいいというような、色々な取組を諸外国では始めています。小学校での色々な教育を幼稚園に下ろしてくるときのひとつの方法として、ICTを活用しているということが少なくとも行われているので、何が大事かというところと効果がどこにあるか。ICTを活用してどこに効果があるかということはかなり出始めていますので、そういう所に重点を置いて活用していく。例えばドリル学習などは、紙と同じくらいICTでやるのに効果がある。そういうようなことに絞って葛飾区では取り組んでいるという事を始めていったらどうでしょうか。そういう意味で区としてのランドデザインみたいなことをちゃんと策定して、それにのっとった行政を進めていくという攻略をとったらどうかと聞いていました。

ジェンダーとか平等とか多様性についてもまだ二の足を踏んでいるリーダーが多いので、そういう事も積極的に取り入れて前に進めていくというのもデザインが重要になると思っています。

話が長くなるといけないので、最後になりますけれども、アンケートをずっと見ていて、子どもたちはどう思っているのかなということがすごく気になっている。大人の思いで教育内容は進んでいきますけれども、実際、現場の子どもたちはどう思っているのか。例え

ば「もっとICTを使って勉強したい」と思っている子どもたちもいるでしょうし、校庭でドッジボールとかサッカーをやりたいのに校庭が使えないと思っている子どもたちもいるでしょうし、そういうことも積極的に取り入れた葛飾区独自の教育プランも作っていただければいいんじゃないかと思います。たぶんこのアンケートの自由記述欄にそういうことも出てくると思うので、そういう事も積極的に取り入れたスタイルにしていくということがこれから必要ではないかと思って、皆さんの意見を伺っておりました。

○委員長 ありがとうございます。委員からこの後の分析の視点とか、まとめへの方針とか、そういうことを見越したご意見を伺いました。ありがとうございます。委員、お願いします。

○委員 今日委員会も委員長の投げかけの巧みさと言いますか、ヒュッとああいう言葉が出てくる投げかけで皆さんの沢山のご意見が出て来て話しやすいなと感じる一方で、聞いていてドキドキいたしました。

というのは、自分は行政の人間ではないはずですがけれども、このゴールというか計画をまとめていく視点に立った時に果たしていつまとまるのだろうか。スケジュールを見ながら気になっていたところです。なぜかという、部分最適ということと、全体の統一性ということをどういうふうに考えよう、本当におひとりおひとりからたくさんのご意見が出て来ていること、アンケートにこれを落とし込む話を今はしているところですが、アンケートがまとまるのだろうか、という気がしてきました。

というのは、皆さんの方が直接的に体験されているところだと思いますけれども、学校には様々な要求が求められていて、通常の授業そのものに限らないところに色々なものが出てきている実態というのはある。一方でご指摘のあった地域の主体性ということも同時にこの教育振興基本計画というのは捉えなければいけないというがあって、本当にまとまりへの不安を感じる場所です。ただ逆に会議体として考えた時には今日みたいな時間はすごく有意義だと思うんですね。というのは、問を通じてここに居合わせている僕らが色々なことを相互理解できて、課題を共有できているんじゃないか。ここで得られている知見というようなことを基本計画に生かしていただけたらなと考えていて、その時に大事なキーワードになりそうなことは翻訳ということだと思います。先程、委員からプランという名前が冒頭に出てこないという話があって、正に行政の立場からしたら、新しく作る基本計画は基本計画という法律に基づいた名称しかないの、「プラン」なんて使えないよということがあるから出来ないんですけど。いずれ名前を付ける時に、前の時には「プラン」という名前が付いたよ、ということが書いてあれば、「ああそうだ」ということに繋がって、そういう思いとそれをわかってもらうための翻訳という作業があってたくさんのお返答を得られるようになるのではないかと考えています。

今日ご欠席の委員からちょっとお話を伺ったところで、この基本計画というのは、今後の家庭教育の在り方、未来についてどうしていくかということを考える場でもあるので、そういった未来に向けての設問というところではなかなか未来が見えにくいところではあるかと思いますが、ここで出てきたことが上手く取り込めるようなものになればいいかなと思っています。

それで、全くここまで出て来ていなかった話ですがけれども、委員から最後にヒアリングというご指摘がありましたよね。それこそ非常に有効なのかなと。委員長がさっきお話し

やっていた子どもの声というのに関わってくると、これまで予定には十分なかったことかもしれないかもしれませんが、今後の事を考えるととても大事なことになるのではないかと考えています。またまとまらない感想ですけれども。

- 委員長 ありがとうございます。委員からまとめの話をしていただきました。やはり分析とか方向性が1つの指針を今お話をくださったと思います。すごくありがたいお話をいただきました。ぜひ事務局の方で覚えておいていただければと思います。我々も1つの方向性として考え方を生かしたいと思っています。

最後に私から3点だけ申し上げたいと思います。1つは皆さんが言われたようにアンケートはあくまでも下地になるわけですね。これを基にして色々な方向性を考えていきますので、アンケートというのは数字的に重要であると同時に、それなりの価値とか意味を持っているということを踏まえた時にこれを基にしてどんなグランドデザインを描くのかという方向性になるものだという事。皆さんから出たことで、このアンケートがどうこうというよりも、その背景にある、これをどういうふうに生かしていきたいのか、ということが頭にあって委員の皆さんは意見をおっしゃっているわけですね。それはよく分かる話になっていまして、アンケートの数字以外に今の話、子どもの声だとか、地域の声といった実際の肉声を聞きながら分析する。たぶん教育委員会の中でもそういう情報は出ていると思いますし、小・中学校の教諭であれば、学力調査の結果であるとか、あるいは体力調査の結果とか、そういう数字的なこともあります。そういうことと、バッテリーを組ませて多くの事で分析していくという作業になると思います。それが将来的にここで言っている「基本計画の策定」になっていくと思います。そういう見通しを持ちながらこのアンケートが意味を持っているというふうに思いますので、そういう意味で今日の議論というのは、わがまを申し上げましたけれども、私が提案して皆さんから非常にいい意見をいただけて有難かったというのが1点目として申し上げたかったことです。

それから2つ目は、課題をお互いに共有し合うということが重要で、これだけのメンバー、色々な立場の方がいらっしゃると、正直その方の背景を詳細に理解していない部分もあります。話を聞きながら共通理解することの場が持てて非常に嬉しく思います。私も学校教育だけのことだったら大体のことは分かるところがあるのですけれども、地域のことだとか、色々なコミュニティのことだとか、そういう部分は分かりづらい部分があるんですけども、皆さんが意見を出し合うことによって世界が広がっていく。これは20年後、30年後に葛飾区の子どもを作っていく姿だと思うんですね。そういうことを感じたということで、課題が共有できたということが2番目で嬉しいことでした。

3点目には、やはり未来志向ですね。すごく大事なことで、未来の子どもたちがどのように生きていくか。先程も委員からありました英語のことや、ICTのこと。多分、子どもたちは20年後、30年後に全く違う社会を生きていると思います。余談ですが、私がよく引用するんですけども、約60年前に経済学者のケインズが、2030年頃になったら労働時間は週15時間、週3日働けば人間はちゃんと暮らせる社会ができると経済学的に提案している文章があるんですね。当時はちょうど産業革命の後の頃で、1日8時間労働とか、週5日制・6日制とかが定着した頃です。ところがこれから子どもたちが生きる社会というのは、私は週15時間くらい、3日働けば十分豊かな社会にということを書いて想像している経済学者もいるように思います。そんなことを思うと子どもたちの未来をどのように

私たちが作っていくのか。そこに視点を当てた計画であるべきだと私は思います。そういうことを方向付けられるようなアンケートになればいいなと思っています。

そして皆さんの意見を聞いて、これを見ていくと双方向で出てきたように思いますので、最終的には事務局と一緒に頑張っていければと思います。まだ時間もちょっといただいていますので、これから詳しい中身を検討しながらより良い方向性が見出せたらいいなと思っています。私がおまを申し上げてこういう時間を作っていただいて感謝申し上げます。皆さまと協議できたことを嬉しく思っております。それでは事務局から今後のスケジュールなど聞きたいと思っています。

- 教育総務課長 色々ご議論をいただきました。これ以外にご意見等ある場合は9月2日金曜日までに事務局宛てにお寄せいただければと存じます。

そして3回目のこの委員会の開催でございますけれども、1回目にお示ししたスケジュール案より少し調整させていただきまして、確か11月中旬頃に3回目の開催ということで資料をお示ししておりましたが、リスケジュールをいたしまして、12月中旬頃を目標に第3回目の検討委員会を開催させていただきたいと思っております。委員の皆さまには、また改めまして開催通知をご送付申し上げて、出席のご依頼をさせていただきたいと存じます。3回目の会議ではご議論いただきましたこの意識調査の結果をまとめたものについてお示ししてご議論いただくことが中心になるかと思っております。

- 委員長 ありがとうございます。事務局から次のステップについてお話しいただきました。今のお話のように9月2日までに事務局の方に、もし、ご意見がありましたら、細かいことでも何でもいいと思います、ぜひおっしゃっていただいて、精度の高いアンケート調査が出来ればいいなと思っております。文言等の細かいものにつきましては、大島副委員長、私、事務局で最終的には精査させていただきます。皆さんのご意見を基に9月実施に向けて努力してまいりたいと思っております。

非常につたない進行で今日も20分も伸びてしまいましたが、大変申し訳なく思っております。次回から早く終わるように努力したいと思っております。皆さんにご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

これをもちまして第2回教育振興基本計画策定検討委員会を閉会させていただきます。本日は大変ありがとうございました。